

エタグ 居場所確認で犯罪回避 横浜の小学校 で実験導入



拡大写真

エタグで居場所を確認できるようにして子供たちを犯罪から守ろうという試みが5日、横浜市の小学校で始まった。非常時に通報ボタンを押せば警備員らが即座に現場へ駆けつけることができるシステムで、7月末まで実験的に導入する。学校をめぐる安全が議論となる中、結果が注目される。

横浜市青葉区の市立みたけ台小(丸本茂樹校長)で、全児童928人のうち希望する約300人が参加。開発したのは、NTTデータ(江東区)で、児童は手のひらサイズのタグ(重さ20グラム)を携帯。校門や学区内に置かれた30カ所のアンテナ近くを通るとタグが発する電波が検知され、保護者の携帯電話へメールで知らせる。通報ボタンを押せば、パソコン画面に場所とともに児童の名前などが表示される。

児童が携帯するエタグ。中央に通報ボタンがある

保護者の有志が呼びかけ、学校側が協力する形で実現した。参加した3年男児の母親(42)は「居場所が分かりとても安心だ」と歓迎。しかし、参加を見送った3年男児の母親(33)は「そこまで過剰にやる必要があるのか」と話した。不参加の保護者からは「子供は家畜じゃない」といった声も出ているという。

【井上英介】

(毎日新聞) - 4月6日9時58分更新

